



よだれがじゅるり 潮南へボ祭り開催！



▲ ステージに並べられたへボの巣を評価、吟味する来場者

「捕る・育てる・食べる」という3つの楽しさを感じられる、潮南へボ祭りが秋晴れの下開催されました。会場にはへボを追いかける情景が浮かぶ音楽が流れ、へボ飯の引き替え券をもらうための長蛇の列ができるという賑わいぶり。小さなお子さん・遠方からの来場者・長年へボを育ててきたという方まで大勢の人で溢れかえっていました。

「こよりをハチに付け野に放ち、巣を見つけた時の喜びは一塩」「きれいに白くなっている巣は上等品だよ」などと語り教え合う、温かな光景が多く見られる祭りでした。

へボの巣コンテストの優勝者は、3,370グラムで潮見の伊東尚司さん。「一緒にへボを探してくれた人たちあつてこそこの優勝ありがとうございます」と笑顔でマイクを握りました。



右よし！左よし！ 高齢者交通安全教室



▲ ゲーム感覚で運動機能年齢を計測する受講者

交通安全への意識を一層深めようと、『八百津町高齢者交通安全大学校体験教室』が開催されました。

教室では、「ここは事故が起きた場所だ」「あそこで危ない思いをした」と自治会ごとにヒヤリ地図を作成。他地区のグループと、町内の危険箇所情報を共有しました。また、白い色・黒い色の衣服が夜道でどのように見えるのかを体験しました。参加者は「改めて、反射材を身につけることの必要性を感じた」と頷きます。

その他、運動機能年齢を簡易体験機器で計測するなど、時には笑顔を交わしながら、交通安全意識を見直しました。



広めよう人道の心 『メノラの灯』上演



▲ 領事館の外でピザ発給を求めるユダヤ人を熱演する児童ら

八百津小学校卒業生も含め、これまでで800人以上が携わってきた人権創作劇『メノラの灯』。今年も練習を重ねた児童らが、心を込めて演じてくれました。講演は11回目を迎えます。

劇は現代、人道の丘公園から始まります。ユダヤ人の少年センポウと、八百津に住む女の子ナナミが出会い、友達になります。彼女は物語の中で、ナチスによるユダヤ人迫害の歴史や、杉原千畝氏の人道の心を学んでいくのです。児童らの熱演と、心を込めた合唱により、終幕は拍手喝采となりました。

校長はいいさつの中で、「杉原氏が助けた人の子孫が、いろいろな場所で命を輝かせている。氏を誇りに思い、精一杯劇を作り上げた児童らに、今一度大きな拍手を送りたい」と語りました。